

# 平成28年度 政策づくり塾

## 第1回活動報告（開塾式など）

平成28年5月10日（火）、5期目となる政策づくり塾が、市民塾生8名・市職員塾生7名の合計15名でスタートしました。多々見市長の挨拶に始まり、窪田塾長による講義、グループディスカッションなどを行いました。

政策づくり塾は、来年3月まで13回程度の活動を予定しています。

### 市長挨拶（要旨）

- ◆舞鶴市は、定住人口の減少を抑制するとともに、交流人口の拡大を図り、定住人口10万人に匹敵するまちの活力を実現する考えから、「交流人口300万人、経済人口10万人」を目標とした地方創生の総合戦略を策定し、様々な取り組みを行っている。
- ◆高速道路網の完成や京都舞鶴港の機能強化等により交通インフラが整い、赤れんがパークなどの魅力ある観光資源もあることから、観光入込客数は大きく伸びており、平成25年から27年にかけては53万人の増加であった。舞鶴市の人口の自然減が年間700人前後であるが、観光消費額に基づく定住人口換算では、年間約2千人の人口増と同等の効果があつたと試算している。
- ◆現在、北陸新幹線京都府北部ルートの誘致にとりくんでいる。舞鶴市を含む京都府北部地域には、産業、観光、雇用などの面で30万人都市に匹敵するポテンシャルがあるほか、海上保安本部や陸・海・空の自衛隊基地等があり重要拠点が集積していること、南海トラフ巨大地震等が危惧される中でその影響を受けにくい位置にある本地域は、リダンダンシー確保の観点からも大変重要であることなどから、新幹線が通るべき地域であると考えている。

◆舞鶴には良いところがたくさんある。地域に誇りと愛着を持ってほしい。市民塾生は行政の考え方や施策の進め方など、職員塾生は地域に入って市民とともに考えることなどを学び、実践してほしい。

◆後日、塾生の皆さんとの懇談の機会もあるので、それぞれの思い・考えが聞けることを楽しみにしている。



▲市長と一緒に記念撮影

### 窪田塾長講義

◆政策の役割は、地域には必要だが、自然には手に入らず、民間企業等の市場部門で供給されないものを供給すること。

◆市の施策は、必要性を厳しく見極めること、規制などの権力や市民の税金である予算をなるべく使わないようにすること、無駄な人員や時間などを使わないなどの効率性を考えることが重要。

◆地域の公共活動においては、民間や公共といった部門をこえたネットワークが必要で、グループワークが重要であることから、政策づくり塾では、市民と市職員がグループワークを通じて政策を形成し、実践する形をとっている。

◆政策力は、正しい知識と経験によってレベルアップしていくものなので、塾が終了しても経験を積み重ねてほしい。



▲講義を行う窪田塾長

### グループディスカッション

4つのグループに分かれて「舞鶴のいいところ」をテーマにディスカッションし、それぞれ発表を行いました。

初めて顔を合わせた塾生同士で緊張もありましたが、短い時間の中で意見を出し合い、グループとしてまとめて発表しました。

今後はグループワークにより政策を企画・立案し、実践していくこととなります。



▲グループワークの様子

### 第2回活動

6月1日（水）18:15～20:15 舞鶴市役所 413会議室にて

内容：「舞鶴市の地方創生にむけた市の取り組みについて」ほか講義